

県総合防災課によると午後5時半時点で、除雪作業中に転倒するなどして4人がけがをした。22日も大雪となる所があるとして、秋田地方気象台が交通障害や屋根からの落雪などに注意するよう呼びかけている。

気象庁によると、21日午後4時時点の積雪深は北秋田市鷹巣126センチ（平年比252%）、鹿角市117センチ（同239%）、能代市52センチ（同306%）などとなっている。そのほかの地域でも平年を大幅に超えている。県総合防災課と大館市消防本部などによると、自宅前で除雪をしていた50代女性が転倒し左膝を打ち、市内の病院に搬送された。仙北市でも70代男性が除雪中に転倒し、左大腿骨を骨折した。鹿角市、北秋田市でも除雪や雪下ろし中の事故があったが、いずれも命に別条はない。



県教育庁によると、大雪の影響で、北秋田、能代、大館の各市の小中学校や高校など計19校が休校した。午前中で授業を終了するなどの措置を取った学校もあった。JR東日本は除雪作業が難航しているなどとして、奥羽、五能、花輪の各線で、普通列車と特急、快速計92本が運休や区間運休した。航空機は秋田―伊丹間の全日空1便が欠航した。

（NHKなどの報道より）

海老名市の話題

下水道管の緊急点検 （相模川流域の9市3町で）

下水道管の腐食による破損などが原因とみられる埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、神奈川県は、1月30日から各地で点検を開始した。県が管理する総延長約127kmの相模川流域下水道管のうち、海老名市や座間市、綾瀬市などを通る約58kmを点検。結果は県ホームページで公表し、危険度に応じて早急な補修が行われる。

国土交通省が1月29日に、全国の下水道管理者に下水道管の緊急点検を要請。これを受け、県は処理流量が1日あたり30万m³以上の処理場に接続する直径2m以上の下水道管を対象に点検を始めた。対象地域は海老名市、座間市、綾瀬市、厚木市、相模原市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、伊勢原市、愛川町、寒川町、大磯町の9市3町で総延長は約58kmに及ぶ。

点検は2回に分け、一次点検では下水道管が埋設されている路面の状況や、管路に土砂が流入して汚水の流れが阻害されていないかなどを目視で確認。国土交通省の要請に基づき、2月3日からは下水道管が埋設された道路の路面下の空洞調査も追加した。



空洞調査は専用車両を使い、路上から照射したレーダーの反射波を解析し、路面下約3mの空洞の有無を確認した。それぞれの調査について県は、「2月7日までに完了させる」としている。

二次点検では、一次で異常などが認められた所に加え、23年度末までの定期点検で補修が必要と判断された65カ所について、テレビカメラを使い管路内部の劣化の進行を詳しく調べる。一次、二次点検の結果は、県流域下水道整備事務所のホームページで公表される。



◇5カ所で緊急性

県によると、65カ所のうち5カ所は下水道管の腐食などが進んで事故につながる恐れがあるという。緊急に補修を要する状態のため、今年度中に管を交換するなど対策し、残り60カ所は今後3年間で順次補修を進めるとしている。県下水道課では「1日も早く安心して暮らしていただきたい」と話している。

◇3市も独自点検

海老名市、座間市、綾瀬市も各市で管理する直径80cm以上の下水道管を対象に緊急点検を実施している。3市とも県が実施する一次点検の内容をもとに、下水道管の腐食を招く恐れのある硫化水素の発生しやすい所も目視で点検した。海老名市はすでに点検を完了しており、座間市は1月30日から2月7日まで、綾瀬市は1月31日からのスケジュールで順次点検が進められている。

（タウンニュースより）

小学生のデザイン 駅ベンチで魅力発信

小田急線海老名駅西口改札付近に「海老名の魅力ベンチ」がこのほどお目見えした。人工木材でできたベンチの背もたれ部分に、七重の塔やいちご、えびうにゃ、ロマンスカー、ポニーなど海老名の名物が焼きつけられている。

海老名市のシティプロモーション課が市内で初めて設置したもので、絵柄のデザインは、市内の小学生によるもの。毎年夏休みの宿題で「海老名の好きなところ」をテーマにしたポスターを募っており、海老名サービスエリアやららぽーとで展示されている。



（3ページ）

3市消防 救急出動が過去最多



海老名市、座間市、綾瀬市で2024年中に救急出動した件数が、過去最多を更新したことが各市消防本部のまとめで分かった。猛暑となった夏場の熱中症などが出動件数を押し上げたとみられる。

（タウンニュースより）